

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

# 公開実用 昭和62-188875

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭62-188875

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)12月1日

H 04 N 5/64  
G 11 B 33/06

F-7060-5C  
E-7177-5D

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 VTR収納用のテレビジョン受像機一体型キャビネット

⑯ 実 願 昭61-75534

⑰ 出 願 昭61(1986)5月20日

⑱ 考 案 者 石 川 照 男 守口市京阪本通2丁目18番地 三洋電機株式会社内

⑲ 出 願 人 三 洋 電 機 株 式 会 社 守口市京阪本通2丁目18番地

⑳ 代 理 人 弁 理 士 西 野 卓 嗣 外 1 名

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

V T R 収納用のテレビジョン受像機一体  
型キャビネット

### 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) テレビジョン受像機の底面両側に蝶着され、  
直立位置と折畳み位置に回動可能な一対の第 1 支  
持板と、

前記第 1 支持板の蝶着方向と直交する方向に蝶  
着され、直立位置と折畳み位置の 2 位置に回動可  
能な一対の第 2 支持板と、

直立位置において前記第 2 支持板を前記第 1 支  
持板に蝶着固定する固定手段とから成り、

前記第 1・第 2 支持板の直立位置において前記  
両支持板により構成される空間に V T R を収納せ  
しめ、折畳み位置において前記第 1 支持板により  
前記テレビジョン受像機を支持することを特徴と  
する V T R 収納用のテレビジョン受像機一体型キ  
ャビネット。

### 3. 考案の詳細な説明

(イ) 産業上の利用分野

本考案は、テレビジョン受像機と一体のVTR収納用キャビネットに関する。

(ロ) 従来技術

通常、VTRはTV受像機近傍に配置されることが多く、このためTV受像機が載置されるテレビ台自身にVTR収納用のスペースを設けた（例えば電波新聞社発行の雑誌「電気店」（1986年5月号）のP41に開示されるAVシステムラック）ものが賞用されている。

(ハ) 考案が解決しようとする問題点

前記従来技術では、VTRを組み込まない時には空スペースが生じ、テレビ台自体の大型化を招き、美感を損うという問題点が生じる。

(ニ) 問題点を解決するための手段

本考案は、TV受像機の底面両側に蝶着され直立位置と折畳み位置の2位置に回動可能な一对の第1支持板と、この第1支持板の蝶着方向と直交する方向に蝶着され、直立位置と折畳み位置の2位置に回動可能な一对の第2支持板と、直立位置

において第 2 支持板を第 1 支持板に蝶着固定する固定手段とから成り、直立位置において両支持板により構成される空間に V T R を収納せしめ、折畳み位置において第 1 支持板により T V 受像機を支持することを特徴とする。

#### (ホ) 作 用

本考案は上述の如く構成したので、V T R を収納する場合にのみ、T V 受像機の下方に収納スペースを設けることが可能となる。

#### (ヘ) 実 施 例

以下、図面に従い本考案の一実施例のキャビネットについて説明する。

T V 受像機(1)の底面の両側端には、前面(2 a)・側面(2 b)・天面(2 c)の 3 面から成る第 1 支持板(2)(2)が対向的にヒンジ(3)(3)にて蝶着され、直立位置と折畳み位置の 2 位置に回動可能となっている。

第 1 支持板(2)(2)の蝶着方向に直交する方向である底面前端には、ヒンジ(4)(4)にて第 2 支持板(5)(5)が蝶着されている。この第 2 支持板(5)(5)も第 1 支

持板(2)(2)と同様に、直立位置と折畳み位置に回動可能であると共に、上面(5a)(5a)と前面(5b)(5b)にて構成され、前面(5b)(5b)の側縁に螺合孔(6a)(6a)を有するL字状片(6)(6)が固定されている。

(7)(7)は第1支持板(2)(2)の蝶着方向に平行に直立位置と折畳み位置の2位置に内方に回動可能にヒンジ(10)(10)により蝶着された第3支持板である。この第3支持板(7)(7)の下端にはVTR載置面(7a)(7a)があり、また第1・第3支持板(2)(7)間の間隔は、第2支持板(5)の前面(5b)の幅に略等しい。

各支持板(2)(5)(7)が直立位置にある場合、第2図の様にVTR(8)が第3支持板(7)(7)間に収納される。この時、VTR(8)はVTR載置面(7a)(7a)上に載置され、また螺合孔(6a)(6a)にビス(固定手段)(9)(9)を貫通せしめて、第2支持板(5)(5)を第1支持板(2)(2)に螺着せしめ、第1・第2支持板(2)(5)は直立位置にて固定状態を維持する。尚、第1支持板(2)(2)の前面(2a)(2a)の裏

側で螺合孔(6a)(6a)に対向する位置には、ビス止め用穴が予め形成されている。

VTRを収納しない場合には、ビス(9)(9)による螺着を解除し、まず第3支持板(7)(7)を内側に折畳み、第2支持板(5)(5)を後方に折畳んだ後、第1支持板(2)(2)を内側に折畳んで第2支持板(5)(5)を包み込みつつ、前面(2a)(2a)・側面(2b)(2b)の端縁をTV受像機(1)の底面に当接せしめ、第3図に示す様にTV受像機(1)を第1支持板(2)(2)にて支持する。

#### (ト) 考案の効果

上述の如く本考案によれば、簡単な構成にてVTR収納用のスペースをTV受像機の下部に一体的に形成でき、美観上も優れ実用的価値が極めて高い。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例に係り、第1図は要部斜視図、第2図はVTR収納時の外観図、第3図はVTR未収時の外観図である。

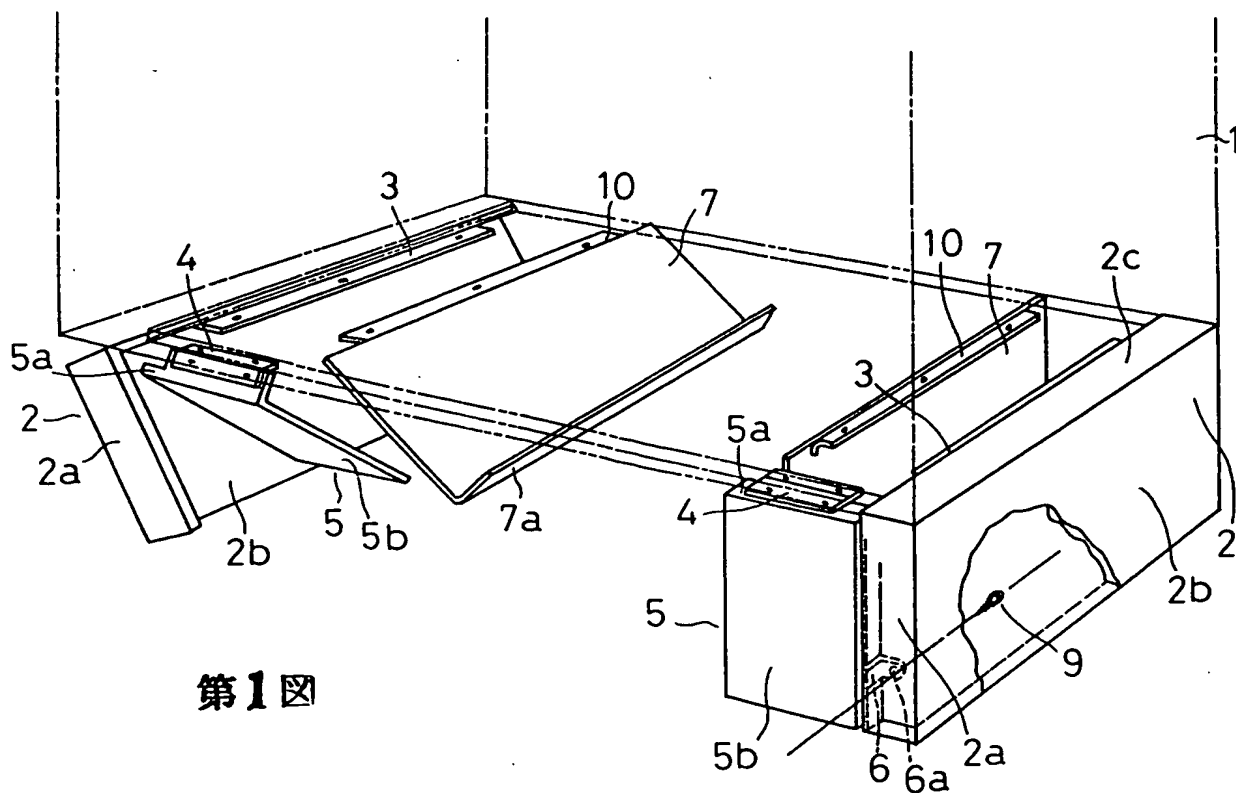
(1)…TV受像機、(2)…第1支持板、(5)…第2支

持板、(8)…V T R、(9)…ビス（固定手段）

出願人 三洋電機株式会社

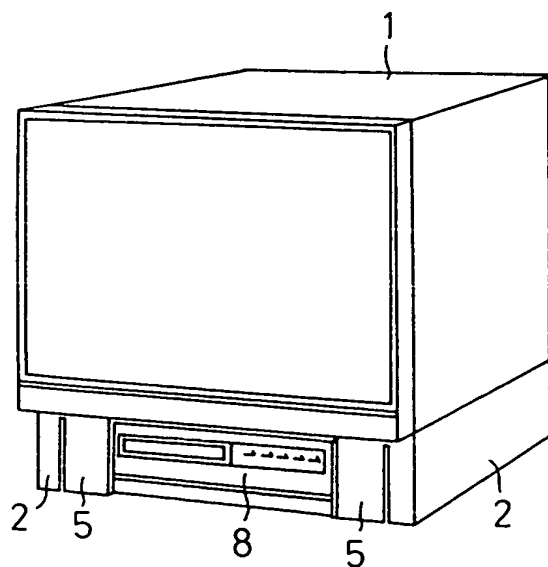
代理人 弁理士 西 野 卓 嗣 （外1名）



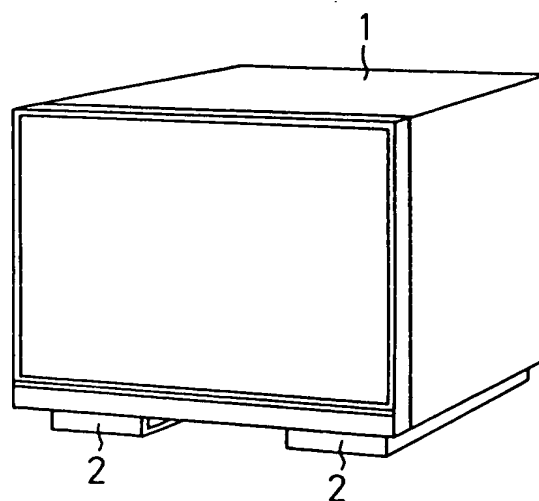


第1図

第2図



第3図



874

出願人 三洋電機株式会社  
 代理人 弁理士 西野卓嗣 (外1名)  
 実開 62-188875